

これはアストラゼネカ英国本社が2009年1月29日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語標記のままとします。

AstraZeneca PLC

2008年第4四半期・通年業績

2009年1月29日 ロンドン発

通年売上は恒常為替レート（CER）ベースで3%増；中核営業利益はCERベースで9%増。

- 中核営業利益率は業務効率改善により対売上比34.7%に改善されました。

新興市場の売上は通年で42億7,300万ドルに達し、CERベースで16%増。

通年の中核1株当たり利益（EPS）は、当社ガイダンスに沿ったCERベースで8%増の5.10ドル。

通年のEPSの成長（CERベースで2%）は、中核EPS成長率を下回る。

- 前年比で無形資産の評価減の増加とMedImmuneの償却期間が1年に延長されたことを反映しています。

長期的競争力の持続を目的とした事業再構築プログラムの範囲を拡大する新たな取り組み。

- 全面的に実施されれば、年間削減費用は14億ドルから25億ドルに増加することが期待されます。

パイプラインの継続的進捗；2009年は最大4つの新規化合物の承認申請を計画。

通年の配当は10%増の2.05ドル。

堅調な現金収支と厳格に管理された投資により純負債は19億ドル減少。

- ビジネスへの投資の柔軟性を維持するために、2009年は株の買戻しを実施しません。

ファイナンシャルサマリー

グループ	第4四半期	第4四半期	前年 同期比	CER %	通年	通年	前年 同期比	CER %
	2008	2007			2008	2007		
	100万ドル	100万ドル	%		100万ドル	100万ドル	%	
売上高	8,193	8,170	-	+4	31,601	29,559	+7	+3
報告ベース								
営業利益	1,892	1,929	-2	-9	9,144	8,094	+13	+4
税引き前利益	1,816	1,837	-1	-10	8,681	7,983	+9	-1
1株当たり利益	\$0.86	\$0.86	-	-9	\$4.20	\$3.74	+12	+2
中核*								
営業利益	2,685	2,430	+11	+5	10,958	9,411	+16	+9
税引き前利益	2,609	2,338	+12	+5	10,495	9,300	+13	+4
1株当たり利益	\$1.25	\$1.10	+13	+6	\$5.10	\$4.38	+16	+8

* 中核財務指標は当社経営陣が当社の業績を理解していただく上で有益であると信じるGAAPとは異なる補足的な指標です。2009年の財務ガイダンスはこの指標に基づいています。中核財務指標の定義については本リリースの9ページを、中核と報告ベースの財務指標の調整については9-10ページをご覧ください。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：「アストラゼネカは、益々厳しさを増す市場環境の中で強固な業績を達成しました。新興市場における堅調な業績に示されているように、当社がビジネスのグローバル化に引き続き成功していることを私は特に喜ばしいと考えています。また、当社は更なる組織の効率改善においても順調に進捗しています。ビジネス再構築への取り組みの範囲の拡大は長期的競争力の持続に向けた重要なステップです。」

ビジネスハイライト別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

第4四半期

第4四半期の売上高はCER（恒常為替レート）ベースで4%増でしたが、為替レート変動のマイナス影響により報告ベースでは横ばいでした。米国では、Toprol-XLの後発品競合によるマイナスの影響が年率換算されたため、売上は3%増でした。米国以外の市場の売上高は5%増、既成市場の売上高は3%増でした。新興市場の成長は堅調を持続し、当四半期の売上高は13%増の10億2,300万ドルでした。

第4四半期には、無形資産の評価減を数件計上し、このうち一部は中核営業利益に影響を与えましたが、中核利益から除外したものの影響は報告ベースの営業利益に対してのみでした。中核営業利益に含まれる無形資産評価減は計1億8,400万ドルで、このうち最大の評価減は、Teva社による後発品の「リスクある」発売と、それに続く特許訴訟の和解に伴うパルミコート吸入液関連の1億1,500万ドルです。中核ベースの営業利益には計上せず、報告ベースの営業利益に含まれる無形資産評価減は1億5,000万ドルでした。MedImmune社の買収に伴うこれらの無形資産は、HPVワクチンに関連する将来の予想ロイヤリティの変更(9,000万ドル)のほか、熱ショック蛋白90(Hsp90)の候補薬IPI-504 (MEDI-561) および IPI493に関するInfinity Pharmaceuticals社への権利の返還(6,000万ドル)等に関連します。

第4四半期中核営業利益は、5%増の26億ドル8,500万ドルでした。これは、主に売上およびその他の収入の増加がパルミコート吸入液関連評価減および売上原価の中のその他の引当金によって一部相殺された結果です。報告ベースの営業利益は、事業再構築費の増加や当期に計上した無形資産評価減により、前年同期比9%減の18億9,200万ドルでした。

第4四半期中核1株当たり利益（EPS）は、2007年同期1.10ドルに対して1.25ドルで、CERベースで6%増でした。この第4四半期中核EPSには為替益7セントが含まれます。また、正味支払利息の減少や一部の長期債権に関連する公正価値利得、発行済株式数の減少がプラスに作用しました。当期の報告ベースのEPSは、事業再構築費の増加および無形資産評価減により9%減の0.86ドルでした。

通年

通年の売上高はCERベースで3%増、報告ベースで7%増でした。米国では、後発品との競合によりToprol-XLの売上が減少しましたが、MedImmune社の年間売上高の連結計上に加え、他製品の順調な売上により、全体の売上高は1%増でした。米国以外の売上高は5%増、既成市場は2%増で、このうち西ヨーロッパ市場では1%増でした。新興市場の売上高は16%増でした。

売上高の増加、売上総利益率の改善ならびに研究開発の効率化により、販売費・一般管理費の微増はあったものの、中核営業利益は9%増の109億5,800万ドルでした。報告ベースの営業利益は4%増の91億4,400万ドルでした。

通年の中核ESPは8%増の5.10ドルでした。報告ベースでの通年のESPは、前年比2%増の4.20ドルでした。中核EPSに比べ成長率が低いのは、中核EPSから除外した無形資産評価減およびMedImmune社関連の1年間の償却費が主な原因です。

研究開発の最新情報

パイプラインの強化は引き続き当社の最優先事項です。当社のパイプラインには現在144のプロジェクトがあり、このうち98は臨床開発の段階にあります。第III相または規制当局による審査中という開発後期にあるプロジェクトは10を数え、特筆すべきは、現在第II相にあるパイプラインは前年同期に比べ50%以上も拡大したことです。ポートフォリオ全体で、44のプロジェクトが次の段階に順調に移行し（17の化合物が最初の臨床試験を開始）、創薬研究の段階から32の化合物が新たに加わり、10が開発を中止しました。

現在承認待ちの重要なプロジェクトは以下の4つです(2つの新規化合物を含む):

- MedImmune社は2008年11月28日、重篤なRSウイルス疾患の予防薬 motavizumab の生物製剤承認申請(BLA)に関し、追加情報の提出を求める Complete Response Letter(CRL)を米国FDAより受領したことを発表しました。MedImmune社は質問への回答に自信を持っており、同社の最新の知見に基づき、新たに臨床試験を実施する必要はないと予想しており、すでに完了している先天性心疾患の満期産児の臨床試験のデータを提出する予定です。同社はこの問題についてFDA審査官と協議を継続し、その協議の内容によりますが、2009年第2四半期には回答する予定です。
- ブリストル・マイヤーズ スクイブ社と共同開発した新規糖尿病治療薬 ONGLYZATM (saxagliptin)の承認申請について、米国および欧州で審査が進んでいます。
- 白金製剤を含む化学療法治療歴のある局所進行または転移性非小細胞肺癌の治療薬としてイレツザの承認申請を欧州医薬品審査庁に提出し、引き続き当局による審査中です。
- 2008年12月24日、当社はセロクエルXRの大うつ病(MDD)適応追加の追加新薬承認申請に関し、米国FDAよりCRLを受け取ったことを発表しました。当社は引き続きFDAと協議し、期限内に回答を提出する予定です。欧州でのMDD申請のほか、全般性不安障害の申請が米国および欧州の当局による審査中です。

2009年には新規化合物の申請を最大4件予定しています。それらは、①治療歴のある進行非小細胞肺癌に化学療法を併用するZactima、②胃潰瘍のリスクのある患者の関節痛治療に用いる腸溶剤ナプロキセンと速放性エソメプラゾールの合剤PN400、③急性冠動脈症候群患者の治療薬として開発中の経口抗血小板薬 *Brilinta* (旧称 AZD6140)、ならびに④混合型脂肪異常血症治療薬として開発中のクレストールとAbbott社のTrilipixとの定量合剤です。

2008年12月11日、当社は、Infinity Pharmaceuticals社の熱ショック蛋白90(Hsp90) 候補薬IPI-504 (MEDI-561) および IPI-493の開発と販売に関する全世界の権利を同社に返還することを発表しました。MEDI-561は希少消化管腫瘍である難治性消化管間質腫瘍(GIST)患者の治療薬として第III相の開発段階にありました。

JUPITER試験の結果に基づいて、2009年第2四半期にクレストールの新適応症を承認申請する予定です。

AZD0837錠の安定性の問題を解決するための研究は依然進行中ですが、心房細動の第III相試験は2009年第2四半期までには開始されないと予想しています。それまで、AZD0837は当社のパイプラインリストの第II相プロジェクトに分類されます。

2008年11月後半、当社は潰瘍性胃出血に関する *Nexium* 静注剤の追加新薬承認申請についてFDAのCRLを受け取りました。この申請は現在の形ではFDAの承認を受けていません。当社はFDAのコメントを検討中ですが、期限内に回答する予定です。EUの申請は欧州の規制当局によって審査中です。

2009年1月、米国FDAは、統合失調症の青年および双極性躁病の未成年者を対象に当社が実施した臨床試験の結果に基づき、承認済み適応症に関する *セロクエル* の market exclusivity(市場排他権保護期間)の6カ月間延長を承認しました。 *セロクエル* の特許有効期限は2011年9月26日ですが、特許失効後発効する小児の6カ月間の保護期間により、同製品の市場排他期間は2012年3月26日まで延長されます。既報のとおり、未成年患者の安全性情報を追加するために、 *セロクエル* の米国の添付文書を改訂中です。 *セロクエル* の小児適応を取得している国は現在米国以外にはありません。

当社の研究開発パイプラインの最新情報は2008年通期の業績報告とともに発表しています。当社のウェブサイト www.astrazeneca.com の投資家向け情報のページをご覧ください。

生産性の向上

第4四半期に事業再構築・相乗効果費用5億1,600万ドルを追加計上し、通年の総費用は8億8,100万ドルに達しました(このうち2億1,900万ドルは非現金項目)。この年間総額は、2007年に始まった既報の19億7,500万ドルプログラムの拡大を反映しています。新規取り組みには、全世界のサプライチェーンの更なる合理化、営業・マーケティング部門およびビジネスインフラの更なる再構築が含まれます。これらが完全に実施されれば、当初の2007年プログラム(7,600人の雇用削減)の修正予測に、新たな事業再構築計画が加わり、2013年までに全体で15,000人程度の人員削減を見込んでいます。すべての人員削減は、各地の労働基準法に従い、労使協議会、労働組合ならびに他の従業員代表者との協議のうえで実施されます。

こうした事業再構築プログラムの拡大に伴い、事業再構築・相乗効果プログラムの総費用は現時点で、29億5,000万ドル(19億7,500万ドルから上方修正)に達すると予想されます。残る11億ドルの大部分を2010年までに計上する予定です。計画が完全に実施されれば、プログラムによる経費削減は年間25億ドル(14億ドルから上方修正)に達する見込みで、2010年末までに21億ドル削減され、2013年には差額が削減されると予想されます。

今後の見通し

当社は、金融市場や経済全体の混乱ならびに医薬品業界に標準的な正常範囲のリスクと機会を想定して、2009年の財務目標を定めました。経営陣は当社の資金力と営業力を生かし事業計画を成功裏に遂行することにより、この厳しい経済状況においても弾力的な財務成績を達成できると確信しています。

2009年の収益はCERベースで2008年と同水準を予想していますが、具体的な結果は、一部、2009年の世界的な経済状況の影響により変動すると考えています。

CERベースでの中核ESPの増加を目指します。中核EPSのガイドラインは、当社の主要通貨の2009年1月時点の為替レートに基づいており、目標値は5.15~5.45ドルの範囲です。この範囲内での実際の数値は、世界経済のマイナス圧力の大きさにより変動します。

この目標値は、2009年の平均為替レートが、利益ガイダンスの基礎となる2009年1月のレートから大きく異なる可能性を考慮していません。米ドルに対する当社主要通貨の変動の影響を織り込んだ売上高および利益の推定値は、本業績報告書とともに提示しており、当社のウェブサイトでご覧になれます。

この中核EPSの目標額は、2009年に自社株の買い戻しを実施しないことを前提とした数字です。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

消化器	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
Nexium	1,324	1,303	+6	5,200	5,216	-2
Losec/Prilosec (オメプラール)	264	298	-11	1,055	1,143	-14
合計	1,611	1,625	+3	6,344	6,443	-4

- Nexiumの米国の第4四半期売上高は前年同期比2%増の8億3,200万ドルでした。小売部門の調剤量は2.5%増でした。予想通り、本年第3四半期まで続いた大幅な価格変動は第4四半期に入って正常化し、実勢小売価格は概ね安定しました。
- Nexiumの米国の通年売上高は8%減の31億100万ドルでした。小売部門の調剤量は通年で2%増加しました。主要PPI製品のなかで2008年に調剤量が増加した製品はNexiumのみでした。通年の平均で実勢小売価格は11%低下しました。
- 米国以外のNexiumの第4四半期売上高は、12%増の4億9,200万ドルでした。新興市場で20%の堅調な成長がみられました。西ヨーロッパの売上はドイツの大幅減にもかかわらず、8%増でした。
- 米国以外のNexiumの通年売上高は9%増の20億9,900万ドルでした。
- 米国でのPrilosec (オメプラール) の売上高は、2008年第2四半期に発売された40mg剤の後発競合品の影響を受け、第4四半期は43%減、通年では25%減でした。
- 米国以外のLosec (オメプラール) の売上高は第4四半期に3%減、通年で11%減でした。Losec(オメプラール) の通年の売上高は中国(19%増)および日本(5%増)では増加しました。

循環器	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
クレストール	987	799	+30	3,597	2,796	+26
Seloken /Toprol-XL	207	209	+2	807	1,438	-46
Atacand	351	353	+9	1,471	1,287	+10
Plendil	67	66	+3	268	271	-7
ゼストリル	52	67	-16	236	295	-24
合計	1,803	1,656	+15	6,963	6,686	-

- 米国のクレストールの第4四半期売上高は、前年比27%増の4億9,000万ドルでした。アテローム性動脈硬化の進展抑制に対する新しい適応症のプロモーションを受けて、第4四半期の処方量は17%増加し、これは市場成長率の4倍以上に上ります。一方、他の主要スタチン製剤の処方量は約18%減少しました。
- 米国でのクレストールの通年売上高は18%増の16億7,800万ドルでした。米国スタチン市場に占めるクレストールの総処方量は年間で125ポイント増加し、2008年12月時点で9.9%に達しました。クレストールはシェアを拡大した唯一のスタチン製剤です。
- 米国以外のクレストールの第4四半期売上高は32%増の4億9,700万ドルでした。西ヨーロッパで16%増、新興市場で50%増加でした。カナダ（29%増）、日本（54%増）およびオーストラリア(91%増)でも堅調な伸びを示しました。
- 米国以外のクレストールの通年売上高は、34%増の19億1,900万ドルでした。

- 後発品を含むToprol-XL関連製品の米国内売上高は、後発品競合状況を年間平均すると、第4四半期に2%増の8,800万ドルでした。後発品の第4四半期処方量は全体の89%を占めました。
- 米国でのToprol-XLの通年売上高は70%減の2億9,500万ドルでした。
- 米国以外のSelokenの第4四半期売上高は2%増の1億1,900万ドルでした。新興市場では16%成長し、西ヨーロッパでは18%減少しました。通年では1%増の5億1,200万ドルでした。
- 米国のAtacandの通年売上高は1%増の2億6,200万ドルでした。米国以外の市場の売上では12%増の12億900万ドルでした。既成市場で10%増、新興市場で18%増でした。

呼吸器および炎症

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
Symbicort	514	436	+29	2,004	1,575	+22
パルミコート	397	447	-10	1,495	1,454	-
Rhinocort	78	87	-8	322	354	-12
アコレート	18	19	-5	73	76	-5
Oxis	15	22	-27	71	86	-24
合計	1,059	1,056	+6	4,128	3,711	+7

- 米国のSymbicortの売上高は第4四半期は9,000万ドル、通年では2億5,500万ドルでした。ターゲット専門医によるSymbicortの試用率は90%に近づき、合剤治療を新たに始める患者の30%超がSymbicortによる治療を開始しています。プライマリケア医の同試用率も50%を超えており、そのうち新規患者でのシェアは17%を上回ります。定量合剤の新規処方量に占めるSymbicortのシェアは、1月16日終了週に11.7%で、合剤治療を新たに開始する患者でのシェアは18.3%でした。
- 米国以外の市場のSymbicortの第4四半期売上高は13%増の4億2,400万ドルでした。西ヨーロッパで11%増、新興市場で21%増でした。Symbicort SMART療法はこれまでに91の市場で承認されました。
- 米国のパルミコートの第4四半期売上高は15%減の2億6,000万ドルでした。パルミコートTM吸入液の売上高は、11月18日の後発品ブデゾニド吸入懸濁液(BIS)の「リスクある」発売により、18%減少しました。Teva社との特許訴訟は11月26日に和解し、Teva社は当社の排他的特許権下で2009年12月15日よりBISの販売を開始できることとなりました。この合意によって、Teva社がすでに出荷している製品も市場にとどまり、さらに流通、販売されることになりました。この結果、Teva社製品は第4四半期のBIS製品の総処方量の約15%を占め、2008年12月のシェアは40%に達しました。
- 米国のパルミコートの通年売上高は前年比2%増の9億8,200万ドルでした。パルミコート吸入液は米国内のパルミコート総売上高の90%を占めました。
- 米国以外のパルミコートの通年売上高は2%減の5億1,300万ドルでした。

オンコロジー

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
アリミデックス	451	474	-1	1,857	1,730	+4
カソデックス	284	370	-24	1,258	1,335	-12
ゾラデックス	278	307	-6	1,138	1,104	-3
イレッサ	73	70	-1	265	238	+3
Faslodex	61	58	+10	249	214	+12
ノルバデックス	23	24	-8	85	83	-6
Ethyol *	5	16	-69	28	43	n/m
合計	1,195	1,339	-9	4,954	4,819	-2

* このMedImmune製品の売上高は、2007年6月1日からアストラゼネカに連結計上しているため、前年の売上高は7カ月間分である。

- 米国のアリミデックスの第4四半期売上高は5%減の1億7,700万ドルでした。アリミデックスの総処方量は3%減少し、乳がんのホルモン治療薬市場全体の低下率1.5%をわずかに上回りました。アリミデックスの通年売上高は9%増の7億5,400万ドルでした。

- 米国以外のアリミデックスの売上高は第4四半期に2%増加しました。通年では1%増の11億300万ドルでした。
- 米国でのカソデックスの当期売上高は1%減、通年では前年比2%減で2億9,200万ドルでした。
- 西ヨーロッパでは後発品との競争を受け第4四半期売上高は56%減、その結果米国以外のカソデックスの第4四半期売上高は30%減の2億700万ドルでした。通年でも15%減の9億6,600万ドルでした。
- イレッサの世界全体の年間売上高は、日本では3%減少したものの、中国などの新興市場での成長により、3%増の2億6,500万ドルでした。
- Faslodexの年間売上高は米国で5%増、他の市場で18%増でした。

ニューロサイエンス	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
セロクエル	1,160	1,086	+10	4,452	4,027	+9
ゾーミッグ	112	114	+3	448	434	-1
合計	1,495	1,449	+7	5,837	5,340	+6

- 米国でのセロクエルの第4四半期売上高は、前年同期比8%増の8億3,100万ドルでした。抗精神病薬市場の成長率と同じく、セロクエルの総処方量も5%増加し、この増加分の44%はセロクエルXRによるものです。セロクエルは米国市場をリードする抗精神病薬であり、2008年12月現在、総処方量に占める割合は31.6%でした。
- 米国のセロクエルの通年売上高は前年比5%増の30億1,500万ドルでした。
- 米国以外のセロクエルの第4四半期売上高は14%増の3億2,900万ドルでした。西ヨーロッパの売上高は26%増でした。
- 米国以外のセロクエルの通年売上高は17%増の14億3,700万ドルで、金額、数量ともに全地域で市場の成長を上回りました。
- ゾーミッグの通年売上高は米国で6%増の1億8,700万ドル、米国以外で5%減の2億6,100万ドルでした。

感染症・その他	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
Synagis*	506	480	+5	1,230	618	n/m
Merrem	217	215	+10	897	773	+13
FluMist*	33	53	-38	104	53	+96
合計	805	816	+2	2,451	1,714	n/m

* これらMedImmune製品の売上高は、2007年6月1日からアストラゼネカに連結計上しているため、前年の売上高は7カ月間分である。

- Synagisの第4四半期売上高は5%増の5億600万ドルでした。米国以外で42%成長しましたが、米国の売上は3%減の3億8,000万ドルでした。
- Synagisの通年の売上高は12億3,000万ドルでした。2007年の売上高6億1,800万ドルは2007年6月のMedImmune社買収以降の売上高です。
- FluMistの売上高は第4四半期3,300万ドル、通年で1億400万ドルでした。2008年とは違い、2007年のFluMistの総売上高5,300万ドルはすべて第4四半期に計上されました。これは、新規製剤処方および適応化宇内の承認時期によるものです。

地域別売上

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2008 100万ドル	2007 100万ドル		2008 100万ドル	2007 100万ドル	
北米	4,080	3,996	+3	14,785	14,511	+2
米国	3,784	3,665	+3	13,510	13,366	+1
Rowの既成市場	3,090	3,194	+3	12,543	11,491	+2
Rowの新興市場	1,023	980	+13	4,273	3,557	+16

* ROW (その他) の既成市場には西ヨーロッパ諸国 (フランス、英国、ドイツ、イタリア、スウェーデンなど)、日本、オーストラリアおよびニュージーランドが含まれる。

- 米国では、Medimmune社の1年間の売上高の連結計上およびクレストール、Symbicortおよびセロクエルの売上増が、後発品との競合によるToprol-XLの売上不振やPPI製品のNexium および Prilosec (オメプラール) の売上減を上回り、通年の売上高は1%増でした。
- その他の既成市場の通年売上高は2%増でした。西ヨーロッパの売上は、カソデックスおよび Losec (オメプラール) の売上が減少しましたが、Synagisの1年間の売上計上に加えて、クレストール、セロクエルおよびSmbicortが成長したため、1%増でした。日本の売上は主にクレストールの貢献により4%増でした。オーストラリアの売上はクレストールおよびNexiumに牽引され18%増加でした。
- 新興市場の売上高は通年で16%増加し、米国以外でのCERベースの売上成長率の60%超を占めました。新興市場では、ほぼすべての市場で成長がみられ、特にクレストール、Nexium、セロクエル、SymbicortおよびZoladexが顕著な業績を達成しました。中国の通年の売上高は31%増の6億2,700万ドルでした。

営業およびファイナンシャルレビュー

別段の記載がない限り、伸び率はすべて中核ベースの恒常為替レート（CER）ベース。以下の指標はGAAPとは異なる指標であり、当社の業績を理解しやすくするために採用しています。中核ベースの財務指標では、事業再構築および相乗効果プログラムの費用および引当金、償却、企業買収に伴う重要な無形資産の評価減、米国での現在および将来にわたるメルク社との提携打ち切りに関する取り決めに関連する償却費などの特定項目が除外されます。

第4四半期

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位。加重平均株数も100万単位。

	報告ベース 2008	事業再編 費用100万 ドル	MedImmu ne 社償却	Ethyol 等 の減損費	メルク社 償却	中核 2008	中核 2007	前年同 期比 %	CER %
売上高	8,193	-	-	-	-	8,193	8,170	-	4
売上原価	(2,112)	277	-	-	-	(1,835)	(1,726)		
売上総利益	6,081	277	-	-	-	6,358	6,444	(1)	3
売上高の%	74.2%					77.6%	78.9%	-1.3	-0.7
物流費	(71)	-	-	-	-	(71)	(67)	7	18
売上高の%	0.9%					0.8%	0.8%	-	-0.1
研究開発費	(1,355)	50	-	60	-	(1,245)	(1,396)	(11)	3
売上高の%	16.5%					15.2%	17.1%	+1.9	+0.1
販売一般管理費	(2,856)	189	75	-	22	(2,570)	(2,685)	(4)	4
売上高の%	34.8%					31.4%	32.9%	+1.5	-
その他の収入	93	-	30	90	-	213	134	60	70
売上高の%	1.1%					2.6%	1.6%	+1.0	+1.0
営業利益	1,892	516	105	150	22	2,685	2,430	11	5
売上高の%	23.1%					32.8%	29.7%	+3.1	+0.3
正味金融支出	(76)					(76)	(92)		
税引き前利益	1,816	516	105	150	22	2,609	2,338	12	5
支払い税額	(557)	(153)	(31)	(44)	-	(785)	(706)		
税抜き後利益	1,259	363	74	106	22	1,824	1,632	12	5
少数株主持分	(11)					(11)	(9)		
純利益	1,248	363	74	106	22	1,813	1,623	12	5
加重平均 株主数	1,447	1,447	1,447	1,447	1,447	1,447	1,464		
1株当たり利益	0.86	0.25	0.05	0.07	0.02	1.25	1.10	13	6

売上高は報告ベースで横ばい、恒常為替レート（CER）ベースで4%増でした。為替損により売上高は4%減少しました。

第4四半期中核ベースの売上総利益率は、CERベースで前年同期比0.7ポイント減の77.6%でした。パルミコート吸入液に関連する無形資産評価減(1億1,500万ドル)および他の準備金により、売上総利益率は3.0ポイント低下しました。また、支払ライセンス料の増加により前年比0.3ポイント低下しましたが、メルク社への支払いの減少（0.6ポイント）および継続的な業務効率化と混合要因（2.0ポイント）により一部相殺されました。

第4四半期中核ベースの研究開発費は、当期に無形資産評価減に関する費用4,500万ドル計上しましたが、研究開発生産性向上プログラムの成果により一部相殺された結果、前年同期比3%増の12億4,500万ドルでした。

第4四半期中核ベースの販売費・一般管理費は、新興市場への継続的投資とSymbicortとクレストールへの米国におけるマーケティング投資の拡大が営業の効率化を上回り、前年同期比4%増の25億7,000万ドルでした。

中核ベースのその他の収入は、少額の一時所得が数件発生したため、前年同期比7,900万ドル増加し、2億1,300万ドルでした。

中核ベースの営業利益は26億8,500万ドルで、CERベースで5%増、報告ベースで11%増でした。為替変動により、中核営業利益は6%増でした。前年と比較して、ドルはユーロに対して10%強く（売上高と費用が減少）、スウェーデンクローナに対しても21%強く（費用が減少）、英ポンドに対して30%強くなりました（費用が減少）。CERベースでの中核営業利益率は0.3ポイント上昇して、売上高の32.8%となりました。

た。これは、その他の収入の一時所得が販売費の増加を上回ったためです。

第4四半期中核EPSは1.25ドルで、CERベースで6%増でした。これには、中核営業利益の増加、正味支払利息の減少ならびに発行済株式数の減少に伴う利益が反映されています。報告ベースの中核EPSは7%の為替益を含み、13%増でした。

報告ベースの営業利益は、事業再構築・相乗効果費用の増加、Infinity Pharmaceuticals社へのHsp90候補薬の権利の返還ならびにHPVワクチンの予想ライセンス料の修正(9,000万ドル)による無形資産評価減を反映してCERベースで9%減の18億9,200万ドルでした。報告ベースのEPSは0.86ドルでした。

通年

1株当たり利益を除く財務上の数字は、すべて100万単位である。加重平均株数も100万単位である。

	報告ベース 2008	事業再編 費用100万 ドル	MedImmune 社償却	Ethyol等 の減損費	メルク社 償却	中核 2008	中核 2007	前年同 期比 %	CER %
売上高	31,601	-	-	-	-	31,601	29,559	7	3
売上原価	(6,598)	405	-	-	-	(6,193)	(6,004)		
売上総利益	25,003	405	-	-	-	25,408	23,555	8	4
売上高の%	79.1%					80.4%	79.7%	+0.7	+0.8
物流費	(291)	-	-	-	-	(291)	(248)	17	16
売上高の%	0.9%					0.9%	0.9%	-	-0.1
研究開発費	(5,179)	166	-	60	-	(4,953)	(5,089)	(3)	(1)
売上高の%	16.4%					15.7%	17.2%	+1.5	+0.8
販売一般管理費	(10,913)	310	307	257	99	(9,940)	(9,535)	4	3
売上高の%	34.6%					31.4%	32.3%	+0.9	+0.1
その他の収入	524	-	120	90	-	734	728	1	3
売上高の%	1.7%					2.3%	2.5%	-0.2	-
営業利益	9,144	881	427	407	99	10,958	9,411	16	9
売上高の%	28.9%					34.7%	31.8%	+2.9	+1.6
正味金融支出	(463)	-	-	-	-	(463)	(111)		
税引き前利益	8,681	881	427	407	99	10,495	9,300	13	4
Taxation	(2,551)	(259)	(125)	(121)	-	(3,056)	(2,716)		
税抜き後利益	6,130	622	302	286	99	7,439	6,584	13	5
少数株主持分	(29)	-	-	-	-	(29)	(32)		
純利益	6,101	622	302	286	99	7,410	6,552	13	5
加重平均 株主数	1,453	1,453	1,453	1,453	1,453	1,453	1,495		
1株当たり利益	4.20	0.43	0.21	0.19	0.07	5.10	4.38	16	8

売上高は報告ベースで7%増、恒常為替レート（CER）ベースで3%増でした。為替益により売上高は4%増加しました。

通年の中核ベースの売上総利益率は、前年同期比0.8ポイント増の80.4%でした。これには、主にメルク社への支払い額の減少（1.0ポイント）および継続的な業務の効率化と混合要因（1.2ポイント）がプラスに作用しましたが、支払ライセンス料の増加（0.6ポイント）および無形資産評価減や他の引当金(0.8ポイント)により一部相殺されました。

中核ベースの研究開発費は前年より1%減少し49億5,300万ドルでした。MedImmune社の1年間の費用を連結しましたが、生産性向上と効率化、事業再構築による経費減、ポートフォリオの変更のほか、中核ベースの研究開発費に算入する無形資産評価減に関連する費用(2008年は8,400万ドル)の減少により、ほぼ相殺されました。

中核ベースの販売費・一般管理費99億4,000万ドルは、前年比3%増で、この増加はMedImmune社の費用の連結や、新興市場への投資拡大、裁判費用の増加によります。

中核ベースのその他の収入は7億3,400万ドルで、前年比600万ドル増加しました。この増加は、MedImmune社のライセンス料・ロイヤリティ収入が一時所得およびライセンス料収入の減少を上回った結果です。

中核ベースの営業利益は109億5,800万ドルで、CERベースで9%増、報告ベースで16%増でした。為替変動により、中核営業利益は7%増加しました。CERベースでの中核営業利益率は、売上総利益率の改善、研究開発費の削減と販売費・一般管理費の効率化により、1.6ポイント増、売上高の34.7%でした。

2008年の中核EPSは5.10ドルで、CERベースで8%増加しました。これは、中核ベースの営業利益の増加と発行済株式数の減少による利益が、正味支払利息の増加を上回った結果です。報告ベースでの中核EPSは16%増加しました。

報告ベースの営業利益は91億4,400万ドルで前年比4%増、中核ベースでは9%増でした。2008年第1四半期に発生した *Ethyol* の評価減2億5,700万ドルを含むMedImmune社関連の無形資産評価減に加えて、MedImmune社関連償却費12カ月分(前年は7カ月分)を計上しましたが、2008年の事業再構築・相乗効果プログラム費用の微減により、一部相殺されました。

2008年の報告ベースのEPSは4.20ドルで、CERベースで2%増加しました。為替益を含むと、報告ベースのEPSは12%増加しました。

受取利息と支払利息

2008年の正味支払利息は、前年の1億1,100万ドル(前年第4四半期9,200万ドル)に対して、4億6,300万ドル(第4四半期7,600万ドル)で、この増加は主に、MedImmune社買収に伴う追加借入れによる支払利息と平均現金保有量の減少による受取利息の減少が原因です。

通年の正味支払利息には、2つの長期債に関連する正味公正価格利得1億3000万ドル(前年8,200万ドル)も含まれます。これらの債権は変動利付債に交換され、IFRSによる公正価格基準により計上されています。この会計処理では、社債もこれに伴う金利スワップも時価により表示されます(時価による評価差額は損益計算書に報告)。各社債の時価は市中利率の変動を反映し、概ね相殺されますが、クレジットスプレッドの変動も反映します。このため、本年にみられたクレジットスプレッドの拡大により社債の時価が下落したため、上述の正味利益が発生しました。当社は、信用市場の安定化に伴い、この利益はほとんど消失するものと予想しています。

税金

実効税率は第4四半期30.7% (前年同期30.6%)、通年29.4% (前年29.5%) でした。2009年の年間税率は現時点では29.5%程度と予想されます。

キャッシュフロー

営業活動による現金収入は、2007年の75億1,000万ドルに対して、2008年は87億4,200万ドルでした。この12億3,200万ドルの増加は、主に償却・減損費計上前の営業利益の増加18億1,400万ドル、支払税の減少3億5,400万ドル、および運転資金の減少2億3,300万ドルが、支払利息の増加3億5,500万ドルおよび準備金の変動を含む非現金項目の減少8億1,400万ドルを上回った結果です。

投資活動による正味現金支出は、前年の148億8,700万ドルに対して、2008年は38億9,600万ドルでした。主にMedImmune社の買収費用148億9,100万ドルを控除した現金支出の増加39億ドルは、主に部分償還の一部としてのメルク社への支払26億3,000万ドル、短期投資および定期預金の変動および流動資産以外の資産の処分による現金収入の減少8億9,300万ドルならびに受取利息の減少2億900万ドルが他の無形資産購入費の減少2億3,500万ドルを上回った結果です。

株主への現金還元額は、中間配当の支払額27億3,900万ドルと正味株式買い戻し額4億5,100万ドルにより、31億9,000万ドルでした。

資本と負債の構造

2008年12月31日現在、有利子負債総額(ローン、短期借入金および当座借越を含む)は118億4,800万ドル(2007年12月31日現在151億5,600万ドル)で、このうち9億9,300万ドルは返済期限が1年以内の負債です(2007年12月31日現在42億8,000万ドル)。返済期日には現在の現金残高42億8,600万ドルと事業活動による現金収入により、これらの負債を返済する予定であり、借り換えの必要はありません。正味有利子負債額は、2007年12月31日から19億3,800万ドル減少し、71億7,400万ドルでした。

配当と株式の買い戻し

当社取締役会は、第2回中間配当金を11%引き上げ、1.50ドル（104.8ペンス、12.02スウェーデンクローナ）とし、2009年3月16日に支払うよう勧告しました。これにより、年間配当額は10%増の2.05ドル（132.6ペンス、15.36スウェーデンクローナ）となります。

第3四半期に発表したとおり、当グループ株式買い戻しプログラムを一時停止しました。この結果、第4四半期には、年度初めに発行した変更不能計画書に従い、20万株のみを買い戻し、償却しました。第4四半期の本プログラムに伴う費用は700万ドルで、年間では総額6億1,000万ドルを投じて、1,360万株を買い戻しました。本年1年間では、ストックオプションの行使を考慮し、総額1億5,900万ドルで410万株を発行しました。

2008年12月31日現在の発行済株式総数は14億4,700万株です。

当社取締役会は、事業投資のための柔軟性を維持するため、2009年には自社株買いを実施しないことを決定しました。

カレンダー

2009年4月30日	2009年第1四半期業績発表
2009年4月30日	2009年年次株主総会開催
2009年7月30日	2009年第2四半期・上半期業績発表
2009年10月29日	2009年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者
David Brennan